

令和 6 年度
学校関係者評価報告書

一般財団法人岩手済生医会
岩手リハビリテーション学院

別添資料 次第

令和6年度 自己評価報告書

令和6年度 学科別自己評価報告書

令和2～6年度 国家試験結果および留年者・退学者状況報告書

学院案内 2026

令和8年度 学生募集要項

I 会議の概要

日時 令和7年7月14日（月） 19時00分～20時30分

会場 岩手リハビリテーション学院

出席 岩手リハビリテーション学院 学校関係者評価委員会

委員 一般社団法人岩手県作業療法士会 会長

委員 一般社団法人岩手県理学療法士会 副会長

委員 岩手リハビリテーション学院同窓会「桐友会」 会長

岩手リハビリテーション学院 職員

学院長 遠藤重厚

副学院長 細川康紀

理学療法学科長 佐藤浩哉

作業療法学科長 岡崎謙治

事務長 峯 智

II 会議の内容

1. 開会

峯事務長より、令和7年度学校関係者評価委員会の開催が告げられた。

2. 学院長挨拶

遠藤学院長より、出席に対する御礼と報告に対する審議の依頼がなされた。

3. 委員紹介

峯事務長より、学校関係者評価委員会の委員ならびに職員が紹介された。

4. 議長選任

学校評価実施規程第14条第6項に則り、一般社団法人岩手県作業療法士会会長が議長に選任された。

5. 議事

はじめに細川副学院長より配付資料の確認がなされ、引き続き自己評価結果報告がなされた。

(1) 自己評価結果報告（対象期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日）

細川副学院長より報告に関しては「現状および課題」ならびに「対策」に分けて報告する旨が示された後、学校全体の内容に関しては細川副学院長、学科単独の内容に関しては佐藤理学療法学科長、岡崎作業療法学科長より令和6年度自己評価報告書に沿って報告がなされた。

資料掲載事項以外の口頭説明の主旨は以下の通り。

1. 教育理念・目標

- ① より具体的に教育方針を周知するために策定している3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミSSIONポリシー）については、ホームページでの公開のほか見学説明会等においても説明している。
- ② 臨床実習指導者会議や就職説明会等を対面とWebのハイブリッド形式で行い、業界ニーズの把握に努めることができた。
- ③ 今後の理学療法士・作業療法士の需要予測や今検討されている指定規則改正の動きを注視しながら、求められる人材輩出に努めていく。

2. 学校運営

- ① ホームページ管理においてタイムリーな情報掲載が課題であり、業者への依頼によるタイムラグを解消するため職員による迅速な情報発信を目指す。
- ② 学生に対する情報共有や伝達システムの充実に向け、理学療法学科では従来の書面掲示板の利用を廃止し、ホームページ学生掲示板のみに一本化する。

3. 教育活動

- ① 授業評価に関して学生に対する授業アンケートを行い、授業の質の向上に役立てることができた。
- ② 業界が求める人材についてのアンケート調査を令和7年度は臨床指導者会議にて行う。
- ③ 成績評価における客観的指針として GPA（Grade Point Average）を令和7年度より導入する。
- ④ 専任教員数は、作業療法学科は8名体制、理学療法学科は1名を確保し、6名体制となり指定規則人数を確保した。

4. 学修成果

- ① 理学療法学科の国家試験合格率が全国平均を下回る結果となった。これは学生の質的な低下に教務の対策不足が原因として考えられるため、令和7年度より2年次から外部業者対策を導入し、知識の確認と補習を行う。
- ② 作業療法学科の国家試験対策として4年生はグループ学習と個別学習に別けて対応した。国家試験結果は不合格者1名であった。この原因は個々の学生へのフィードバック不足が大きな要因と考えられた。対策として学生の個別面談報告等を全教員間で定期的に行い指導に繋げていく。
- ③ 理学療法学科における退学者について、令和6年度は学科教育方針と学生間の認識のずれによる退学者は皆無となった。これとは別に理学療法に対して自身の適性に悩み退学する学生がいる。この対策として精神的・心理的なアプローチを強化し、悩みを抱えている学生の早期の発見と個人面談の方法について具体的に検討していく。
- ④ 作業療法学科における留年・退学の事由としては学業不振が起因となっているものが多数を占めている。原因として学習習慣の欠落、誤った学習方法（暗記中心等）があり、これを踏まえながら個々の原因把握と指導を丁寧に行っていく。

5. 学生支援

- ① 学生相談・ハラスメント対策については、相談窓口の設置、この利用方法の周知の徹底を図った。また授業アンケート等を用いて学生が感じる問題点の把握に努めた。これらの対処により改善はみられてきている。今後もこの取り組みは継続していく。
- ② 理学療法学科における保護者等との連携については、令和6年度は十分な連携を図ることはできなかったため、令和7年度以降は定期的な「学科通信」の発行、希望のある保護者に対しては随時面談等を行うことで連携を強化していく。
- ③ 作業療法学科における保護者等との連携については、学年毎の保護者説明会を1・4年生は対面で、2・3年生はオンラインで開催しており、学年毎の課題を保護者と情報共有している。また、保護者説明会の参加率は1・4年生では90%、2・3年生では50%であり、2・3年生の参加率の低さというものが成績不振の学生の保護者に伝えるということに結び付かない一つの要因と考えられ、参加率を上げるための対策を検討していく。

6. 教育環境

- ① 施設・設備等の老朽化が見られるため、5か年計画により令和7年度は西面外壁の改修を予定していたが、1階～4階のトイレを洋式に改修する計画に変更して行う。

- ② 備品等の老朽化も見られるため、令和7年度は下肢装具等の教育備品の入れ替えを計画している。

7. 学生受け入れ

- ① 少子化により入学定員の確保は厳しい現状ではあるが、学院の魅力をアピールするため令和7年度は学院案内パンフレットを刷新し、ホームページ・募集要項と合わせて受験生の目線で見やすい構成と内容に変更する。
- ② 高校訪問、学院見学説明会、学科別説明会などを通して本学の特色や魅力を発信していく。

8. 財務

- ① 法人としては病院も経営しており、コロナの影響から脱却していないため令和7年度から経営改善対策室を設置し、病院部門の収支改善に向けて具体的な立案を行う。

9. 法令遵守

別添資料「令和6年度自己評価報告書」の通り。

10. 社会貢献・地域貢献

- ① 感染性疾患の感染状況を見極めながら、依頼のある各種ボランティア活動には積極的に協力していく。
令和7年度は新たに、近隣にある小学校支援学級の水泳授業へのボランティアに作業療法学科教員が協力する。

(2) 自己評価各項目についての質問・意見等

1) 臨床実習指導者会議等の開催方法について (1. 教育理念・目標)

意見 (理学療法士会副会長) 臨床実習指導者会議・就職説明会等をできる限り対面で行い業界ニーズの把握に努めていくとしているが開催方法について、参加する施設側としては Web 開催であれば職員を参加させやすいという面もあるので検討していただきたい。

回答 (細川) 全て対面開催ではなく、対面と Web のハイブリッド開催についても検討していく。

2) 授業評価及び教員確保について (3. 教育活動)

感想 (同窓会長) 評価項目の7)授業評価の実施・評価体制、10)教員確保について、前年度よりも評価が向上したことは学院が対策に努めた結果であり、評価する。

3) 資格取得等に関する指導体制等について (3. 教育活動)

質問 (同窓会長) 評価項目の9) 資格取得等に関する指導体制等について、前年度よりも評価が低下した理由は何か。

回答 (細川) 国家試験対策として、個人の能力を把握しながらの指導体制については、きめ細かい部分が欠けており改善する必要がある。

4) 国家試験対策について (4. 学修成果)

質問 (同窓会長) 国家試験対策について、各学科での対策に違いがあるが理学療法学科が導入する外部業者システムと作業療法学科の模擬試験について説明してほしい。

回答 (細川) 国家試験対策については、それぞれの学科の考え方があり、理学療法学科では外部業者のアプリを利用し、作業療法学科では2社(医歯薬模試・三輪模試)の業者模擬試験を利用する。

(佐藤) 理学療法学科が利用する外部業者アプリは、過去18年間分の国家試験問題を教員が自由に組み合わせて国家試験対策用の問題を作成し、学生にタイムリーな配信を行い、学生はスマホに専用アプリをダウンロードして利用するものである。

(細川) このシステムの良いところは、解答を誤った場合に再度問題を解けることや誤った解答への解説が付くため学生個人で工夫しながら利用ができることであり、また、学生個人別の利用時間が分かるため教員は学習状況の確認もできる。

(岡崎) 作業療法学科の国家試験対策は、学生の状況を担任が責任を持って確認しているため外部業者アプリ導入について検討はしたが、もう少し様子を見ることにして現在の対策を継続することにした。

5) GPAの導入と活用方法について (3. 教育活動)

質問 (理学療法士会副会長) GPAというものを簡単に説明してほしい。

回答 (細川) GPAは大学等で使われている成績を簡単に数値化したものであり、海外留学や奨学金制度などに利用されている。

GPAはGrade Point Averageの略称で、学生の到達度評価方法の一種です。学生が履修した授業科目ごとの成績にGP(Grade Point:各科目の成績を、その得点に応じて5段階〈4.0、3.0、2.0、1.0、0.0〉に分けて数値化したもの)を設定し、その平均を計算したものです。

6) 国家試験対策について (4. 学修成果)

質問 (理学療法士会副会長) 理学療法学科の国家試験対策について、2年生から国家試験対策を始めることの弊害はないか。国家試験を合格さえすればよいというようなことにならないか。

回答 (佐藤) 国家試験の不合格者は共通問題の成績が悪い傾向があるため基本的には解剖学・生理学・運動学(特に筋の部分)を徹底的に理解し、実力をつけさせることが目的であり、決して国家試験のためだけという対策ではない。

(細川) 学生は学習するポイントが分からず暗記する傾向があるため早い段階から国家試験問題に触れることで何が大事なことが分かるようになる。業者アプリの活用により何を勉強すればよいのかを示唆してくれるため、活用の仕方により成績向上の効果が期待できると思われる。

7) 保護者等との連携について (5. 学生支援)

質問 (理学療法士会副会長) 前回も同様のことを話したが、保護者等との連携は有意義なことではあるが業務上教員が大変であり、保護者等との連携は学校評価上での取り組みが必要なことなのか、または学院の方針として必要なことなのか。

回答 (細川) 保護者等との連携は評価項目でもあり、学院としても必要なことであると考えている。保護者等に学生の学習習得状況等の情報を定期的に提示し、理解していただくことにより適切な連携に繋がると考えているが、連携の進め方等については継続的に検討する必要がある。

(岡崎) 保護者等との連携について、高校訪問の際に高校の先生方に聞くと大学でも連携しているのは半々のようで大学にはそれなりの意図があると思うが、本学院としてはできるだけ保護者との間に齟齬が生じないように色々な溝や隙間を無くすることの一環として必要と考えている。

8) 指導体制・ハラスメント等について (5. 学習支援)

質問 (理学療法士会副会長) 匿名性を確保しながらの定期的な授業評価アンケート調査を実施したとのことだが、調査ではどのような意見が出るのか。

回答 (岡崎) 作業療法学科のアンケートは項目を設けて点数を付けさせ、匿名性を確保してのコメント欄も設けているが個々のコメントは入っていない。

(佐藤) 理学療法学科のアンケートでは授業に関する批評だけではなく教員の学生に対する態度や接し方など不平不満の意見があった。

匿名性確保に向け、記載されたアンケートは学科長のみが確認し、内容をWordに打ち込んだものを各教員にフィードバックしている。

9) その他

質問 (理学療法士会副会長) 作業療法学科の定員割れに関して、どのようにしたら作業療法士の良さを伝えることができ、目指してもらえるのだろうか。

(作業療法士会会長) 学校側から作業療法士会や理学療法士会に対して何かアクションを起こしてほしいという意見や要望があれば聞きたい。

回答 (細川) 個人情報保護など多くの課題があり実行は困難かもしれないが、対象者(相談者)・作業療法士・作業療法学生・高校生の4者が一同に介し、①対象者・作業療法士による臨床場面の一端を見せていただき、②それを踏まえて作業療法学生と作業療法士がディスカッションを行う(学生の視点で臨床の観察学習)。③その状況を高校生が見学する(作業療法の現場見学と作業療法を学んでいる学生の姿勢・考え)といった場があったら、高校生はよりイメージを持てていただきやすいのではと考える。

(岡崎) 臨床現場での設定は難しいと思う。特に身障系の療法士の先生方はきちんと自分のポリシーや治療理論を持ってやられており、外部から来たときにそれがどのように見えるのかというと、同じように見えるという意見はよく聞く。

病院の中で見える部分と見えない部分があり、特に中学生・高校生には見えにくいところだと思うので、それについては学校だけでは無理なので臨床現場の先生方の協力が必要であり、合わせながら検討していければと思う。

感想 (同窓会長) LINE、Instagramでの情報発信について、今回学院ではSNSツールを活用して様々な情報を発信しており、生徒や親も情報を取り入れる手段としてとても扱いやすいため、高校生のみならず小・中学生を持つ親などに向けても学院PRの上でとても良い印象を受けた。

質問 (作業療法士会会長) 入学志願者が減少していることから学生募集の上で、高度専門士取得や修士への道を支援していくことを大きく謳うなど道筋を明確に示した方がよいと思うがどうか。

回答 (細川) 確かに、ご指摘の点に関しての広報は不足していたと思う。ご指摘の点を踏まえながらホームページ内容などを吟味していきたいと思う。

意見 (作業療法士会会長) 卒業生の中には、こういう形で修士を取得した人もいるということを紹介するなど、大学との差はないということアピールできると良いと思う。

7. 閉会

全ての議事を終え、峯事務長より令和6年度学校関係者評価委員会の閉会が告げられた。